

技術士受験メモ H25 年度合格

技術士(建設部門): 施工計画施工設備及び積算

氏名: 熊野古道

「Ⅰ はじめに」

技術士試験は、ガンガン勉強してもダメで、またガンガン勉強してもダメ。ある時、ふと、こうしたら、こう書いたらいいのではないかと気づく。すると、ガンガンやらなかったのに、すんなり合格！！みたいな試験ではないかと感じました。

以下に、私が行った対策や思ったことをダラダラと記載しました。

「Ⅱ 業務詳細について」

H25 年度の試験改正の最大の点である業務詳細について。

ここで、

…技術士って何ですか？

と聞かれて明確に答えられる人は、口頭試験受験者や既技術士の方くらいではないだろうか。逆にこれを明確に答えることが、合格へ近づくのではないかと思われるが、私も技術士って何??? という状態(というか考えたこともなかった)で筆記試験を受験した。

技術士とは？技術士法によると

科学技術に関する高等の専門的応用能力を必要とする事項に関する計画、研究、設計、分析、試験、評価又はこれらの指導の業務を行うものをいう。

(大体、大学の土木等を出て、その道で仕事している人は上記の業務をやっている)

技術士資格の管轄は文部科学省であり、1 級土木等のように国交相ではないことに留意する。

技術士法第 1 条

この法律は技術士等の資格を定め、その業務の適正を図り、科学技術の向上、国民経済の発展に資することを目的としている。

(ポイントは科学技術の向上と国民経済の発展に寄与するのが技術士であるということ)

上記のことを理解しないまでも、知っている状態で申し込みをする必要がある。特に業務詳細については、計画、研究、設計、分析、試験、評価又はこれらの指導というポイントを抑えて記載する必要がある。(当たり前である。それ以外は技術士として定義していないのだから、評価のしよう

がないからである。しかし、4月にきちんとわかっている受験生などほとんどいないのでは無いか。)

また、口頭試験で試験官が唯一持っている自分に関する資料である。技術士にふさわしい経歴がないと経歴が×となってしまうのは明白である。

私も出願時、そうであったが、どうしてこの点が強く認識出来ないのだろうか？

私の答えは、今年も受験するが、受かるのか分からないし、といった点があるからである。記念受験を毎年続けているようなものだった。

しかし、私のダメダメ論文を添削していただいている師匠達が、「試験改正による業務詳細は大事です。見せてください」と連絡が来るのである。本当に感謝しなければならない。

ちなみに私は中堅ゼネコンに入社し、国交省の現場代理人などを業務として行なっているため、施工計画に関する事項が技術士に相応しい分野となるため、この点に絞って業務詳細ネタを作成し、添削してもらい、申し込みを行った。

ここで、ポイントになってくるのは、技術士に相応しい点である。

私は幸いなことにH24年度までの技術的体験論文を添削料を払って、技術士の方へ見ていただき、完成させていた。これを省略バージョンとして720字以内へまとめることで、容易に作成できた。

最初から720字で作成するよりも、H24までの技術的体験論文を作成して、業務詳細へ持って行く方向の方が、事例を2つ作れるし、口頭試験時に有用となるから私は望ましいと感じた。

技術士資格を何故目指すのか？

APECさんが講義でおっしゃっていた通り、『みなさんは業務等で十分に実績やノウハウをもっているのです、持っていないのは技術士という看板です』

技術士とは看板である。技術士は名称独占資格である。技術士をもっていない優秀な技術者も沢山いる。逆に技術士は持っているが、現場の事を全く知らない職員も当社にはいる。

私が口頭試験を受験した時に下記の質問があった。

技術士の名称を表示するメリットはなんですか？

これに対し、次のように答えた。

「技術士の名称を名刺等に記載することで、発注者さんよりこの技術者は高等な専門的応用能力をもった技術者であると認識してもらえるため、表示するメリットはあると思います。」

この答え方が100点か分からないが、試験官はうなずいていた。

私の技術士取得の本当の理由は名刺に技術士(建設部門)と記載して配りたい、ということが最大の理由である。

ただそれだけのために毎年、カミサンから

「バカじゃないの？お金の無駄！！」

なんて、言われながら諦めずに受験していた。

「Ⅲ 筆記試験について」

次に①から順に対策や試験時の留意事項などを羅列した。

①過去問収集

過去問収集は基本であるが、apex セミナーにある合格論文の事例が最も効果的だと思われる。(市販の問題集を買うより、フリーダウンロードを購入して合格論文の方が宝の山である。)このような論文を書けば、合格できるんだと思い、がぜんやる気がでる。

しかし、自分もが書いている論文はどこが悪いのかは自分ではわからないため、必ず添削を受ける必要がある。これは、無料ではなく有料で添削してもらう方が良いと思われる。お金をかけるところはかけるようにする。

ちなみに、ダウンロードしたデータはすべて iPad の iBooks にぶち込んで、閲覧できるようにした。こうすると、資料を一杯抱えて図書館へ行く必要もなくスマートに勉強できる。国土交通白書もホームページからダウンロードして全部入れたし、いろいろなサイト等で仕入れたネタは全て分野別に分けて保存した。

②論文作成

勉強開始後、悪い癖で、情報収集ばかりしていると実際の論文をかけず時間ばかりたってしまう。しかし、情報収集に気を取られるのは、人間の心理であると思う。それは、楽しんで合格したい。そのため、想定問題や予想問題の収集に励むようになる。それは、論文作成能力を上げる要因にはならないため(勉強をしている気にはなるが)、6月から8月の試験までは、どんどん論文を書いては添削してもらうようにしなければならない。

自分で書いて論文はどのようにして書かないといけないのかを身にしみて分かる必要がある。特に現場に従事している人間は、特に文章や論文に接する機会がないため、過去問を見て、な〜んだわかるじゃんという質問内容でもまともに書けない。この書けないことを自分で実感するためには、書いて他人に評価してもらう必要がある。自分ヨガリの文章は他人には読めず、非常に読

むのに苦痛な論文になる。実際、2次試験の論文採点では、最後まで読まれない論文は即、不合格である。

自分が採点者の立場になれば明白である。合格率10%ちょっとなので100人中10人くらいがまともな論文であるため、全部最後まで読んでいては終わらないはずである。このことから難しい文章を書くのではなく、最後まで読める文章を記述すれば良いことになる。だから論理の飛躍はダメなのである。論理が飛躍した瞬間にその論文は・である。試験官の採点が楽になる。

私の合格した論文は大したことは書いていないが、最後までサラッと読める文章であった。ということは、15%程度の人間しかまともな文章がないということは、そう、技術士試験は論文試験なのである。

私の仕事で接している方が技術士2次試験を受験して不合格であったそうだ。出身大学は東京大学である。東大院卒でも落ちる試験である。頭がいいからといって合格できる試験ではない事は明白である。たぶん東大を出て不合格という印鑑を押されることは、いままで無かったのではないか。それくらい特殊な試験だと思う。

③ 択一試験対策

択一对策は今後どのような方向に進んで行くのか分からないが、この難易度の調整だけで合格率は変わってくる。また、論文がAAであっても落ちる。平成25年度の試験改正はそれだけ大きな改正だったと思う。このため、今後とも択一試験が難しくなるとは思えない。逆に1次試験との差別化(内容が重複しない配慮)をどのように図るかが問題になってくるのではないかとおもわれる。

しかし、私のように平成24年度までの建設一般の論文がネックで合格できなかった人間にとっては、択一試験になって本当に良かった。去年までは、本当に建設一般のおかげで受験継続を諦めようかと考えたくらいである。

この択一对策は過去問丸暗記でOKである。実際これで今年は11/15で合格だった。今年の受験者の中には択一が予想外に過去問から出題されて後悔した方も多いと思われる。出来て当然、択一が出来なければ、H27年度から論文は採点されなくなるという、足切りのな要素になり、プレッシャーに拍車がかかってくる。

ちなみに国土交通白書は、iBOOKsにダウンロードしただけで、殆ど見ていない。

具体的な勉強方法は、私は普段から仕事でiPadを使用しており、これに過去問をダウンロードし、チョット暇があれば、開き(iPadは瞬時に立ち上がるため非常に便利)択一をやる。寝る前に布団に入って2問やって寝るとかいった具合である。

④受験までの日程

- 4月:出願 勉強開始
- 5月:GWは図書館へ
- 6月:中だるみ現象
- 7月:現場が忙しくなる
- 8月:受験

毎年この繰り返しであり、結局、毎年4ヶ月も勉強していない。そんな事で技術士なんか受かるのか???

4月の出願について

平成24年度までは、技術体験論文の作成が求められていたため、筆記試験が合格か不合格か分からないが技術体験論文を作成していたのが良かった。業務詳細については、結局、技術体験論文の省略版のようなものとなり、作成していてよかったと思った。

業務詳細とは、技術士にふさわしい点を理解していないとまず書けない。しかし、技術士の出願時に理解している人はほぼいない。ということは、業務詳細が書けない。そのためには、教えを請うのが一番である。今後も技術的体験論文の作成は必要ではないだろうか。口頭試験対策にもなるため、1度、完璧に作成することが必要だと思う。筆記試験合格後に後悔しないためには。

5月の対策

5月はGWもあるため、結構やる気がある。しかし、やっていることは情報収集ばかりで鉛筆を一つも動かさないただの調べ物である。これから早く脱出する必要がある。それには、少し高くても α ゲルなどの長時間書いても手が疲れないものを買うことである。これにより、何か書きたいなどと思うし、新しいノートを買くと俄然やる気が出る。取り敢えず書いて書いて書きまくる。手で書くことを覚えることが大事になる。

これで、5月は頑張るのみ。

6月中だるみ対策

6月になると新鮮味が無くなり、だんだんとやっつけ的な勉強になってくる。これでは、勉強が捗らない。やる気を出すためには、技術士のブログや合格体験記を読む。これにより、忘れかけていたやる気を取り戻す。図書館へ行きやる気のある学生に紛れて勉強するといいい刺激になる。スキヤキ塾筆記試験セミナーに出席してさらなる刺激を受け、本番へ気合を入れる。

7月の業務対応について

現場が4月に着工した場合、段々と忙しくなってくる時期である。実際、今年度の現場においても設計変更協議があり、勉強をしようと7時に帰ろうとしたら、発注者から電話があったり、急ぎの資料が要求されたりする。帰りたくても帰れない状況が続くと勉強も段々とないがしろになってくる。

7月は文章の構成について気を配りながら書くことをかんがえる。課題と問題点の違いや課題の解決方法、具体策など、いわゆる骨子法と呼ばれるものである。このトレーニングをすることにより、文章の構成が見る見る内に組み立てやすくなる。しかし、これに気がついたのは、合格した年であり、だいたい3年かかってしまった。ポイントとしては、……だから～～出来ない。……と～～に整理できれば課題と問題点は整理できる。解決の方向と具体策をリンクさせてまとめる練習をする。

試験前日までの悪あがきについて

試験の前日は図書館にて、当日を想定して同じ時間割で模擬試験を自分でやる。これはかなりオススメである。合格するまでは、自分で模擬試験をやったことはなく、試験の時に初めて大変な筆記試験をやっていた。勉強方法としては、実践をやらないということは、大学入試などの模擬試験をやらないようなもので、当然、合格するはずもないし、勉強法として間違っていると思う。

こんな単純な事に気が付いたのは、4回目の受験であった。

⑤筆記試験当日について

最大の難関である筆記試験は、毎年、クソ暑い8月上旬の日曜日にある。こんな酷暑に行っている国家試験は他にあるのだろうか。

私の受験した名古屋会場は毎年変化が見られ、今年は、愛知学院大学という不便なところであった。まず、会場の下見は必要であるとおもわれる。この会場は名古屋市営地下鉄藤が丘駅よりバスで15分と受験票に記載してあった。大体、名古屋大学で受験したときも地下鉄がごった返していたのに、バスってヤバイと思われ、事前に調査したところ、8時までに会場に着くバスが最も早く着くことが分かった。そのため、自宅を6時30分に出発し、会場へ向かった。

藤が丘駅で昼飯(おにぎり3つ、ウイダーインゼリー、コーラ、チョコレート)を買った。へき地の受験会場では、近くにコンビニも無いので、その辺りも段取りしておく必要がある。

案の定、私は試験会場の棟に1番くらいについて、試験室の階で汗を拭い、ぼちぼち受験モードへ。だんだんと人が増えてくる。会場へ入って良いとのアナウンスがあり、席へ着く。開始15分くらい前である。まだまだ、受験生が入ってくる。問題文が配布される時間になっても受験生が入ってくる。みんな汗ダクだ。この時点で勝負は着いている。遅刻なんて問題外である。後日、知り合いのコンサルさんに聞いたところ、バスはごった返し、バス行列が出来て、疲れたとのこと。こうならないために、人より少し早く着くことも受験対策になると思う。

⑤ー1 建設一般(択一問題)

今年より問題の改正により、建設一般が択一試験となった。私は、この建設一般の問題は全く自信がなく、多分、論理的な文章に欠けているのが、B 評定から抜け出せない原因であったと思われる。この試験改正がなかったら、今年も合格出来ていなかったであろう。

まず、受験番号やマークシートを絶対に間違えないように記載する。マークシートなんて5年前に1次試験を受験して以来なため、不慣れな感じであった。

問題を見てビックリした。ほとんどが過去問(H18まで)とソックリで、多少このご時世に合わせている程度であった。

前日にタマタマ、過去問を自己模擬試験で5年分やったのが功をそうした。15問中10問は間違えなくあっていると確信した。(答えを覚えていたから)この傾向は続くのか、どうかは分からないが、難しくするとこの択一だけで合格率が下がるので、そのような難解になるとは思えない。

しかし、国土交通白書を見て勉強したり、何処かの想定問題集だけの対応では、9問以上で来たかどうか?ここでこけたら非常に辛い、というか終了。

とりあえず、昼飯を食べた。

⑤ー2 専門

専門は施工計画であるため、今回の試験変更で大幅に変更になる科目であると想定されていた。(解答数の2倍の出題とあり、毎年、15問程度から2問選択していたので)私は、毎年、安全と大規模掘削しか選択せず、プラス α でコンクリート、安全、入札制度等を勉強するのみである。というか、業務に直結しているネタは勉強しやすいので、それのみしか対応できなかった。

私のようなゼネコン等の現場で従事している技術者は今年はラッキーだったと思う。

というか、実務レベルの問題が多いので、技術士会は、机上の知識だけではダメで、経験と確かな知識や応用できる技術者を今後も技術士として認めたいという意識が強いのではないかと思った。

IIー1 問題

ここでは、工程に関する問題、コンクリートに関する問題、地下掘削に関する問題、PFIに関する問題であった。迷わず、コンクリート、地下掘削に関する問題を選択した。ここで、注意すべきは、1問1枚で回答すること。以前のように前置きを長くとると、すぐに1枚は埋まってしまうので、ほとんど知識を箇条書きするような感じで書いた。コンクリートは暑中コンクリートなので、現場で実施する当たり前の事ばかり記載すると、1枚は埋まってしまった。地下掘削についても、過去に同じような問題が出題されているので、容易に書くことができた。

私の場合、合格できなかった過去 4 年の知識が蓄積されていたり、業務における知識があつて、多少の文章能力があれば十分であると感じた。Ⅱ-1 問題では、専門知識を要求されていることから、重要キーワードについて基本的知識があれば対応可能だと感じた。

Ⅱ-2 問題

Ⅱ-2 では、高炉セメントのコンクリート、建設副産物に関する問題であった。最初はコンクリートにしようか迷ったが、養生に関する知識が微妙であり、コンクリート示方書に記載されている知識レベルで勉強していなかった。コンクリートを基本から勉強している人にとってはなんてことはない問題だと思われる。

一方、建設副産物については、現場で毎回取り扱い、いつも業務で行っている、検査時に用意する書類内容や現場での追跡調査や、管理手法を書けばいいのでは、と思い、選択した。復元した内容を見てもごくごく平凡な記述内容であるが、それが、当たり前のように書けないのが、この試験の難しい理由である。

Ⅱの問題では、2 時間しか与えられておらず、はっきり言って時間がない、時間がないのに 3 題も回答する必要がある。今回、誰もが感じたと思われるが、簡単に文章の組み立てを行い、書いて行かないと書ききれない。選択した問題に迷っているとタイムオーバーである。問題を選定する判断力と速記力が求められる。試験改正で変わったと実感したのは、Ⅱ問題だと思う。このⅡ問題は、実際に時間を計測して模擬演習を行うことが重要だと感じた。実際、書き終えたのは、終了の 10 分前と少し焦ってしまった。

Ⅲ問題

Ⅲ問題は、今年から導入された課題解決能力を図る出題であった。2 題より、選択であったが、1 つは、維持管理に関する問題、2 つ目は重大災害に対する安全の問題である。わたしは、重大災害に対する安全の問題を選択した。課題解決能力を問う問題とあるが、実際は、昨年までの建設一般の施工計画バージョンであると理解するのではないかと思った。過去の建設一般でネタ作りしていた内容と、安全、特にリスクアセスメントや技術継承のナレッジマネジメントに関する知識をフルに使って書いた。

この問題の対策は、H24 年度までの建設一般に「施工計画の技術士の立場」で記述する訓練が一番効果的であると思われる。施工計画以外の分野でも維持管理ネタが出ていることから、傾向が来年も同じだとしたら H24 までの建設一般の記述の様に数年で、ネタ切れになるのではないかと。そうしたらまた試験改正??

「H24 年度と H25 年度の試験改定に関する考察」

技術士法がなんら改定されていないわけではないので、技術士試験に求められている要求事項は同じだと考える必要がある。しかし、施工計画に関しては、特に出題形式が H24 年度と比較して変化している。

H24 までは、港湾、トンネル、鉄道、入札等の分野においても出題があったが、今年に至っては、4 題のうち 2 題を選択することから、施工計画は現場従事者（元請ゼネコン）が圧倒的に優位になった気がする。従来、パターン化されていた入札や積算の問題は何処に行ってしまったのだろうか？

4 題中 2 題選択なんてほとんど選択の余地は無く、コンクリート、大規模掘削、安全、廃棄物しか過去に選択しなかった私にとっては、H24 年度までのように 16 問でようが、15 問でようが、コンクリート、大規模掘削、安全、廃棄物しか選択しない。ということから選択問題は選択できない問題となった。

対策はいままで通り、スキヤキ塾の合格事例集を有料（1500 円で減茶苦茶お得）でダウンロードして、合格する論文はどのようなものか習得すること。自分の理解しやすい合格論文のセンテンスや書き方を暗記する。しかし、合格論文の丸暗記は逆効果なので、考え方や文章の書き方などを覚えるという意味である。（いわゆる、合格した人の真似をするのが、私のような凡人が合格する最短ルート）

筆記試験試験終了後

受験後、オッサンだらけのバスに揺られて地下鉄藤が丘駅に向かった。自宅に帰り、復元論文を作成し、添削していただいた講師の方へ送付した。結果は、多分大丈夫とのこと。。

筆記試験というのは、頭をフル回転させてこれまで習得した知識や丸暗記した論文などこれまでに生きてきた知識を絞り出す試験だと思う。終わった後は、ボーっとしてしまう。

筆記試験のために業務がおろそかになっていないと思うが、筆記試験の後は業務に没頭し、現場に集中することとした。

⑥筆記試験合格発表まで

平成 24 年度までは、技術的体験論文の作成が合格だろうが不合格だろうが作成しないといけなかったため、何らか勉強していた。しかし、今年度より無くなってしまったため、基本的にもしていない。H24 年度までに技術的体験論文は、添削を繰り返し完成させていた。

実際、今年は、現場運営や設計変更対応が忙しすぎて全くそんな余裕がなかった。本当は、業務詳細を見直し、口頭試験対策を少しでも初めておくべきだが、本当のところ合格発表を待たないとやらないのが普通であると思う。

⑦筆記試験合格発表前夜

筆記試験合格発表の前というのは、合格する自信が無かったり、明らかに不合格とおもえる時であってもドキドキするものである。今年は4回目であり、去年は現場の夜勤の時に発表されたため、夜勤中に不合格を確認した思い出がある。

かなりそわそわしてスキヤキ塾の掲示板を頻繁に見てしまう。

何度も起きてipadを開きホームページを幾度と見るが、まだまだ。

朝 5:00 でも発表にならない。

5:30 でもまだ。

5:45 そろそろ家を出ないといけない時間。

諦めて車で現場事務所へ向かう

6:45 到着

心臓バクバクでipadで検索！！

0910E

〇〇〇あった！！！！

自分の前は25人飛んでいる。確か教室の前の人達はみんな受験していた。264もある ということ、自分の後ろで受験していた多分50代のおっさんも合格だ。

嬉しくてしょうがなかった。技術士まであと1歩といったところまで来た。この日だけ喜んだ。

すぐにカミサンに電話した。

「受かったよ」

「はあー、本当に！！良かったじゃん」

終

嬉しくてお世話になった会社の 人達やスキヤキ塾添削講師の方々へメールしまくった。

そもそも何で合格したのかすらよく分からない。去年と対してそんなに変わっていないが、諦めずに毎年受験して、試験制度変更のお陰で合格できたんだと思った。それしか要因が浮かばなかった。

⑧口頭試験まで

合格通知が家に来た。

合格の文字を見るとやたら嬉しくなる。択一 11/15 専門 AA。しかし、口頭試験で落ちるなんてありえないぞっていう感情が強くなり、会社にも筆記試験合格を言いふらしているからシャレにならない。

よし、勉強しよう!!!

毎日 2 時間は、勉強した。

..想定質問をメモ帳に書いては、考えの繰り返し

..技術者倫理を覚える。

→最初は覚えられなくてかなり焦った。大学受験と同じように毎日見るところに貼る
ことを思いついた。トイレにカミサンの許可を得て貼った。

..業務詳細の説明練習を 3 分以内で説明できるように、毎日車の運転中にやった。

→なにも考えなくても勝手に喋れるくらいまで

..技術士法第 1 条、第 2 条を現場の誰にも聞こえないところで繰り返す。

(未だにふとした時、思い出して最後まで言うてしまう)

筆記試験のときの 2 倍以上は勉強した。本当に集中して勉強した。

→技術者として成長する時とはこのことかと実感させられた

この時期は正直、業務に集中できない。

11 月 17 日:スキヤキ塾名古屋にて口頭模擬試験を受験した。

場所:愛知県名古屋市ウイル愛知

面接官 2 人:45 分

この口頭模擬試験はメチャクチャ効果的だと思った。この時、質問された内容はほぼ本番の口頭試験に聞かれるポイントは同じである。スキヤキ塾でも模擬試験は必ず受けることとあったが、逆に受けていない人は口頭試験は上手いっただろうか。と思うくらいである。しかもスキヤキ塾の口頭模擬面接は他人の面接状況まで見る事が出来るので、本当に参考になった。受講生は初対面なのに仲間意識が芽生えてしまった。

..模擬面接はカミサンの模擬面接官が一番強烈だった。

しかし、一番最初にやった家での模擬面接(質問、回答を書いたメモ帳をカミサンに渡して実施)はズタズタだった。(筆記試験合格後、3日目)

カミサン「技術士とは何ですか？」

私「えー、えーっと。。。科学技術に関する。。。えー。」

言葉を忘れたのでは無いかと思うくらい喋れない。

「そんなんじゃ不合格じゃん。あんたヤバイよ。」

そんなこと分かっているが、カミサンが一番直球である。

それから、現場でも巡視しながら、業務詳細の説明や、技術者倫理などブツブツしゃべりながら行うようになった。

2日後にまたカミサン模擬試験をやった。(というかカミサンが心配してくれてやってくれた)

「大分、良くなったね。でも、視線が定まっていなくて気持ち悪いよ。」

毎回、講評してくれるが、厳しい評価ばかり。

4回目あたりから

「いいんじゃない。でも猫背だよ。それじゃ印象悪いよ！！」との評価

試験が近づき、不安になるので、カミサンにお願いすると

「もういいよ。同じことばかり言ってるじゃん。本当にその内容が聞かれるの??」

と却下。

しかし、東京へ行く前日はやってくれた。

独身の人にはできないがカミサンがいる人は是非、家庭内模擬試験をお勧めする。
忌憚りの無い意見を本当に言ってくれる。

⑨口頭試験までの段取り

1. 宿泊先を渋谷とする。
2. 試験の前日は有休とする。
3. 必ず前乗りする。(山手線はしょっちゅう人身事故等でダイヤが乱れるらしい)
4. 会社の上司に伝えておく。

10 前日について

田舎者である私は、前日に Forum8 を下見した。渋谷駅は改装中だったので、ハチ公口はどこなのかよく分からない。iPad を見ながらスクランブル交差点にたどり着き、109 を曲がり道玄坂を登る。すぐにわかった。記念に入り口の写真を撮影して、目の前にある博多ラーメン屋へ行き、昼食をとった。この博多ラーメン屋は 3 回まで替玉 OK である。替玉なんて博多で大学生を過ごした私にとっては、懐かしい響きである。結構うまい。ここはおすすめ、しかも 500 円ってここは渋谷なのに、博多と同じ価格か。

11 前日夜

業務経歴、技術者倫理の口頭練習はやってもやっても切りが無いため、普段通りに練習をやる。早く寝る。それだけでなくも田舎者が渋谷に来て歩くだけで無意識に相当疲れている。

12 当日朝

- 5 時に目が覚める。業務経歴、技術者倫理の何時もの練習を寝ぼけた状態で行う。
 - 7 時に朝ご飯を食べる。この辺りからいても立ってもいられない状態が続く。
- 早いと分かっているが、9 時に出発する。ずっとソワソワじょうたい。

9 時 15 分に Forum8 到着

受付で女性の方に

「13:20 からですが、良いですか」と聞かれる。

待合室は 6F

凄い人が居た。みんな筆記試験に合格した人なんだ。こんなにいるんだと思った。
今年から試験時間が、20分となっているため、集中して大人数になったんだろう。

13 試験開始まで

3時間半は待つ計算だった。11時に昼飯をまた、博多ラーメン屋へ行って、替玉2杯たのんだ。

ここまで来たら落ち着いて音楽を聞いた。トイレに行くついでに試験室402号室を見に行った。誰もいなかった。メッチャ緊張する。

14 受験直前

13:00になり、直前の人を受験していると思い、控えの椅子に座った。

なんなんだこの緊張感は！！

と思った。もう32歳のおっさんである。失礼であるが、周囲はおっさんだらけである。こんなおっさん連中がガチガチに緊張している光景なんて中々見れるものではない。これは二度と見えるものではない気がした。みんな人生がかかっているんだ。

ここにいれることに感謝しようと思った。マイナスなことは考えずに。

深呼吸を20回くらい繰り返す。

13:20ぐらいになり

「ガチャ」

前の受験者が出てきた。

「やばい、メッチャ緊張してきた」

「……さんですか？どうぞ」

「荷物をここに置いて下さい。」

「0910E〇〇〇 ……です」

「では、口頭試験を始めます。」

後は議事録の通りである。

18分くらいでおわった。

ドアを出て、次の方に会釈した。この人もガチガチだ。。

15 口頭試験受験後

口頭試験は様々な周囲の人たちを巻き込んでいるので、感謝のメール、連絡をすべきである。口頭試験は議事録を作成し、技術士保有者の方へ見てもらう。私は、口頭試験終了後、すぐにForum8の8Fにある喫茶店(といっても店員すらいなかった)で議事録を書いた。時間が経過すると質問と返答をいよいよ解釈してしまうため、早めの作成が必要だと思う。

また、現場も年度末に近づくため忙しくなるので、業務に集中する。私は、口頭試験の約1ヶ月後に現場の竣工検査であったため、すぐに切り替える必要があった。ちなみにこの竣工検査の検査官(国交省)は技術士を保有しており、検査終了後の雑談時に私も口頭試験結果待ちであることを伝えると、かなり嬉しそうな表情で話してくれた。その検査官は技術士は取った後が大変なんです。その名に恥じない技術者であるためには、日々勉強が必要だとおっしゃっていた。まさに資質向上の責務であった。

16 受験により得たもの

技術士受験により、高等の専門能力を持った技術者になったかどうかは不明であるが、少なくとも技術に対する見識や意識、取り組み方、発注者への説明手法などに変化が出てきたと思われる。というのは、少し格好を付けたコメントであり、何に対しても知りたいと思うようになったし、知識を得たいと思うようになり、行動するようになった。

「IV 合格の秘訣について」

1. 毎年受験すること(若いうちから)
2. 師匠を見つけること
→論文添削から相談に乗ってくれる方
3. 勉強する癖をつけること
4. 周囲に受験していることを伝えること
5. 不合格になっても諦めないこと
6. 合格後の目的をなんでもいいから持つこと
→名刺に書いてバラマキたいなど

日本技術士会の議事録等を見る限りでは、30歳までに技術士補をとっていただいて、40歳頃に技術士をとっていただくと記載してある。40歳に取得を目指して1発で合格できればいいけど。そんなに上手くいくのか。

自分は26歳(入社4年目)で技術士を志し、1次試験を受験した。1回落ちてH21年度に合格した。2次試験は、H22、H23、H24、H25と4回受験して合格した。筆記試験合格は32歳である。6年かかっている。

日本技術士会の議事録のように1発で合格できれば苦労しないが、合格率は10%チョイの国家試験であるため、難関である。そのため、若手のうちから受験した方が絶対優位だと思う。夏場の筆記試験は体力勝負であるし、暗記力は若手が優位だ。私の上司も受験していたが、50を超えていると、老眼が入り、非常に辛そうだった。

冷静に考えてみると、最短で合格するためには

1次合格率 20%(H22年度建設部門) × 2次合格率 18%(H25年度施工計画)

= 3.6%(2年で1発合格すると)

= 100人中3人くらい

合格率3.6%の国家試験ってかなり難関だ。1級建築士どころではない。

でも、知名度は圧倒的に1級建築士に負けている。→知名度ってあまり重要とは思わない

試験改正を経て、勉強手順としては、

1. 技術的体験論文の作成(H24 年度までのもの)
2. 4 月申し込み業務詳細作成
3. 勉強
4. 筆記試験
5. 口頭試験

業務詳細対策は、何度か記載しているが、技術的体験論文を作成して、その省略バージョンとして提出するのが、良いと思われる。今年度の業務詳細の変更により、本当に出願時から技術士試験は始まっているし、口頭試験も 70%ぐらい終了しているような感じで、それくらい重要になっている。

「Ⅴ 終わりに」

技術士資格を目指すことで、周囲に色々と迷惑をかけましたが、土木技術者としては、ワンランク上の意識にいけたと思います。今後も資質向上のため、若手技術者へ技術士資格取得に向けた支援等を行っていこうと思います。

技術士手当（当社の場合）

合格時→一時金 2 万円

毎月の手当 →無し

合格までにかかった講習費用→30 万円まで負担

（参考書、スキヤキ塾口頭セミナーを含めても 6 万円程度）

2014・1・22

勝手に口頭試験合格した気分で、現場事務所撤去している愛知県……市より

2015.3.3

無事合格

現在、技術士登録段取り